



① こどもの本専門店ブックハウスカフェ

絵本と児童書の専門店。最新刊からここにしかない希少な本まで約12,000冊の本を取り揃える。併設の「ブックカフェ」は、昼間はランチメニューのあるカフェ、夜はお酒が楽しめるバーになる。明るく開放的なソファ席が中心で、ゆったりと寛げる。赤ちゃんや小さな子供と一緒に絵本を選べるように、キッズスペースやおむつ替えと授乳のできるスペースがある。貸し切りできる個室は親子やグループに人気だ。平日は23時まで営業しており、仕事帰りに絵本を買えるだけでなく、大人のためのトークイベントも数多く企画されている。

03-6261-6177
千代田区神田神保町2-5北沢ビル1F



② みわ書房

「みわ書房」は、「親子で来られる古本屋」がモットーの児童書専門店。子ども向け絵本と読み物、大人向け児童文学評論、絶版の古書を扱う。子供向けの読み物は、内外を問わず、古典から現代文学までカバーする充実ぶりが店の柱。これが書棚の半分以上を占める。『世界名作選』『日本児童文庫』シリーズなど、戦前に出版された貴重な名著も手頃な価格設定。装丁も美しく、美術関係者で買い求める人も多い。「今は浦島太郎もアニメになるけど、やっぱり日本の古典文学や民話は日本人らしい挿絵の絵本で読んでほしいですね」(店主)

03-3261-2348
千代田区神田神保町2-3 神田古書センター5F



③ 日本書房

「日本書房」は昭和23年(1948)、学校や図書館に国文学の古書籍を納める専門店としてオープン。『万葉集』『源氏物語』などの古典、松尾芭蕉をはじめとする俳句、国語文法・辞書、方言辞典・解説書など、研究書や辞典がジャンル別、テーマ別に天井まで整然と並ぶ。研究書は芭蕉だけで約300冊、王朝文学は約500冊。国語辞典『言海』は大型本からポケットサイズまですべての版がそろそろ。目録販売は年2回、各回約1万2000タイトル。近年は和本などの古典籍にも力を入れる一方で、国文学の雑誌や研究書は新刊本も扱う。

03-3261-2744
千代田区西神田2-8-12



④ かんけ書房

少年、少女漫画雑誌、貸本漫画から懐かしの児童小説まで揃う漫画専門店。昭和30年代からの少年マガジンや少年キング、冒険王といった少年ものから、マーガレットや少女フレンドなどの少女ものがビニール袋に入れられて綺麗に並んでいる。客層は40年代から60年代の男性が多く、子どもの頃漫画雑誌で育った世代が中心だが、レトロブームで若い世代の客も着実に増えている。人気なのは松本零士、煤図かずお、横山光輝などの作品。水木しげるの作品はもちろん、季刊誌『怪』などのマニアックな雑誌や、海外版の漫画など珍しいものが並ぶことも。

03-5259-0050
千代田区神田神保町1-32 南部ビル201



⑤ 八木書店 古書部

創業は昭和9年(1934)、「八木書店 古書部」は上代から近現代までの日本文学を扱う。歴史的に極めて価値の高い本の影印本、近代文学の初版本や草稿、自筆物の充実が特徴だ。その一例、正倉院で千年以上保管されている文章を精密な写真と印刷、劣化の少ない中性紙で再現する「正倉院古文書影印集成」は研究者垂涎の的。管理システムに先端技術の導入や、新刊書のバーゲンブック(特価本)など業界先駆けの取り組みでも知られる。年に2回、近代文学の魅力を深める特別講座を開催(参加無料)。目録は1月、10月の年2回発行。

03-3291-8221
千代田区神田神保町1-1



⑥ ボヘミアンズギルド

「ボヘミアンズ・ギルド」は、大正9年に池袋に開業した夏目書房の支店で、平成16年に神保町に本店。店名の由来の通り、「慣習にとらわれない自由奔放な芸術家たちの作品」を集める。1階は洋書や写真集、美術書が中心。2階は絵画や稀覯本、自筆物などが並ぶ。特に竹久夢二のオリジナルは100点以上。商品はすべて手にとって見ることができる。「古本屋にこんなものがあるのかと驚かれるようなものを置きたいんです。柱は「心地よくて楽しい」。書店はアミューズメント要素がないとネット注文で完結してしまう」(店主)

03-3294-3300
千代田区神田神保町1-1 木下ビル1F・2F



⑦ 呂古書房

平成5年開店の「呂古書房」は神保町で初めて女性店主が独立開業した豆本専門店。サイズは文庫本の半分以上で、当店には印刷博物館で作られた0.95角の本まである。装丁の美しいものから印刷技術を競うマイクロ印刷本まで種類はさまざま。「豆本は小さいからこそできる贅沢さがある。装丁に古布や和紙などの素材を生かし、文字も印刷し、製本も丁寧。お金と手間をかけた豆本は本としても一級品」(店主)。豆本のほか児童書、版画挿絵本、蔵書票など愛らしく美しいもので溢れる。特に店主が敬愛する武井武雄に関して扱いが広い。

03-3292-6500
千代田区神田神保町1-1 倉田ビル4F



⑧ かげろう文庫

美術・デザイン、写真集や画集、絵本、和洋の古い挿絵本など、目で楽しめる古書が中心。「かげろう文庫」は、19世紀以前の洋書から江戸時代の和本、絵葉書、戦前の古いパンフレットまで、「他店にはない品ぞろえ」(店主)が自慢の古書店だ。すべて絵入りの本なので、洋書や古文書は手に取りづらいつと感じる人にも親しみやすい。客層は幅広く、「古書店としては女性客が多いのも特徴」という。本は300円前後から、古典籍や美術品では数十万円をこえるものまで扱う。店には独特のやわらかな雰囲気漂う。

03-3291-5001
千代田区神田小川町3-26-3 坂本ビル1F



⑨ 唸麻舎

ジャンルは詩歌集、文学、全共闘、美術、イラスト、写真、演劇、舞踏、プロレス、つり、子供の本と、何の脈絡もなく並んでいるように見えるが、これを「60年代、70年代の文化全般」とくくると妙に納得。店主が音楽、映画、舞台など様々なジャンルの人たちと太いパイプを持っており、ここにはレア商品が集まってくる。中でも天井桟敷の関係者から直接買い取った寺山修二の直筆原稿のコレクションは、おそらく日本一。海外から外国人が買い付けに来るような、森山大道や荒木経惟などの写真集や、円谷プロ関連の書籍、その他漫画なども扱う。

03-3233-5635
千代田区神田小川町3-16 池久ビル2F



⑩ 田村書店

仏独文学を中心にヨーロッパの哲学・歴史・美術に関する書籍、洋書の稀覯書を扱う専門店。入口両脇には神社の千社札のように、全集の値札がこれでもかと言わんばかりに、数限りなく貼られている。扱う全集の数が多すぎて、実物はお店の人に頼んで出してもらわなければならないほど。1階には日本の近代文学や、西洋の古典を中心とした翻訳もの、哲学書やその研究書、2階には洋書が並ぶ。蒐集家には料理本(原書)、挿絵本、美麗装丁本が特に人気。店頭では日本一質が高いと言われる特価セールが行われ、いつも多くの人でにぎわっている。

03-3291-0563
千代田区神田神保町1-7



⑪ 一誠堂書店

古書店界の名門「一誠堂書店」は、明治36年(1903)創業の老舗。洋装本、洋書、古典籍(和本、巻物、古地図)など文化系書物全般を扱う。若手社員の意見で書棚に加わったのが映画・演劇の本だ。国内外の大学、図書館、美術館との取引も多い。「うちの柱は一般書、洋書、古典籍の3つ。売れなくても、どれかをやる考えはないんです。他店がやらなくなっても、うちがやっていたらお客さんは来るでしょう。古本屋は持続が大事です」(店主)。値段の過当競争が業界に及ぼす影響を配慮し、HPへの商品掲載は一部にとどめる。

03-3292-0071
千代田区神田神保町1-7



⑫ カスミ書房

この店では「漫画とアイドル写真以外」の、60年代以降から80年代後半までのタレント・テレビドラマ・SF・特撮・写真集などの書籍を扱う。雑誌よりも単行本の方が多いのも特徴だ。本は一冊一冊丁寧にビニールでくるまれ、大切に扱われている。文庫、雑誌、ノベライズ、ハードカバーなどの種類別に書棚に並べてあるため、整然としていて探しやすい。都内のデパートで行われる古書展の時だけ販売する映画の台本、シナリオはマニア垂涎のものだ。こうした、普段はなかなか手に入らない希少価値の高い品は、古書市でめぐり合えるかもしれない。

03-5280-9663
千代田区神田神保町1-34 高瀬ビル302



選んだスポット



つながるスポット

Copyright(c) NPO 法人連想出版

